

静脈血栓塞栓症に対する NOAC/DOAC治療の課題と展望

Treatment of VTE with NOAC/DOAC : current issue and future perspective

中村 真潮 Mashio Nakamura

三重大学大学院医学系研究科循環器・腎臓内科学客員教授
村瀬病院副院長／肺塞栓・静脈血栓センター長

Summary

静脈血栓塞栓症 (VTE) の治療の第一選択は抗凝固療法であり、従来から日本では未分画ヘパリンとワルファリンが使用されてきたが、いずれも調節に難渋するためVTE再発が少なくなかった。近年、非経口Xa阻害薬に加え、非ビタミンK阻害型経口抗凝固薬 (NOAC) / 直接経口抗凝固薬 (DOAC) がVTE治療に使用できるようになった。効果や安全性でより有用性が高いと考えられ、unprovoked VTEなどで長期間の再発予防を可能にする。さらに、発症初期からのNOAC/DOACのみによる治療、ならびに入院期間の短縮や外来治療を可能とする。一方、大規模臨床試験以外の情報はいまだ少なく、今後明らかにすべき多くの課題が残っている。

Key words

- アピキサバン
- エドキサバン
- 静脈血栓塞栓症
- 深部静脈血栓症
- 肺塞栓症
- リバーロキサバン

はじめに

静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism ; VTE) の治療において、従来わが国では未分画ヘパリンとワルファリンが使用されてきたが、近年、非ビタミンK阻害型経口抗凝固薬 (non-vitamin K antagonist oral anticoagulant ; NOAC) / 直接経口抗凝固薬 (direct oral anticoagulant ; DOAC) が使用できるようになった。この新しい治療薬は安全性において従来治療に明らかに優り、モニタリングも不要で利便性も向上している。一方、大規模臨床試験以外にはエビデンスが不足しており、詳細な使用法は定まっていない。

本稿では、VTEに対する抗凝固療法を概説し、NOAC/DOAC治療の課題や展望について言及する。

1 従来のVTEに対する抗凝固療法

1. 未分画ヘパリンによる初期治療

抗凝固療法はVTEの死亡率および再発率を有意に減少させることが明らかにされ、治療の第一選択となっている。1960年代に行われた肺塞栓症に対する無作為試験において、ヘパリン治療群に比して無治療群